風林火山：電車に乗る小学生の静かなること、林の如く

この間、私が電車に乗っていた時、ふと社内を見渡すと、俗に言う大人達がスマホに目と肩を落としていました。駅に止まると、颯爽とランドセルを担いで乗って来た低学年の小学生でしょうか？座席にホップして座るなり、マフィアのゴッドファーザーの如く、静寂で思慮深い面持ちで、窓の外をじっと眺めていました。恐らく、このお方は、熟練したお坊さんのように瞑想していたか、古代の哲学者のように、極限まで思考を凝らしていたのでしょう。

いずれにせよ、小さい頃の自分も、無心で外の景色を眺めたり、色んな事を思い考えていた事を、久しぶりに思い出しました。今や、過去の事を引きずったり、未来に恐怖したりして、「今」を生きる事を忘れていたのでしょう（著書「The Power of Now」のアイデア）。

１分でも早く家に着こうと、アメフトのラインバッカ―並みのタックルで満員電車に突入する事。

何を思ったか、 アクションスターばりに、今にも閉じ始めようとするエレベーターに駆け込む事。

何をそんなに急いでいるのでしょうか？

すぐに求められるメールの返信。素早くコンビニで済ます昼食。より多くの事を達成しようと、新聞を読みながらテレビを見る事（マルチタスキング）。

人に多くの時間を与えるはずだった、パソコン、スマホ、メールなどのテクノロジーは、限りある人の時間と注意を奪う事が多くなったのが現状ではないでしょうか？

しかし、真理は上辺には存在しない（著書「Zen and the art of motorcycle maintenance」のアイデア）。

速読する事が熟読する事に肩を並べる事は永遠に無い。

複数の事を同時に行うマルチタスキングは、一つの事を行うシングルタスキングの足元にも及ばない。

スピードと言うカルト教団に洗脳されて、立ち止まる事をせずに、見切り発車で突き進む事は暴走機関車と何ら変わらない。

考えると言う事は時間が掛かり、長時間サウナに入るかのような辛抱強さと苦しさが伴う物。しかし、苦しんで、考え抜いた者だけが真理に辿り着く事が出来る。

そして、おじゃる丸のオープニングテーマ曲である北島三郎さんの夢人と言う曲のサビのフレーズ「まったり、急がず焦らず…参ろうか～♪」と言うマインドセット（著書「In praise of slowness」のアイデア）こそが、真理に辿り着く理想のマインドセットなんじゃないかな…と思う今日この頃です。